

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700270		
法人名	医療法人 中西クリニック		
事業所名	グループホーム美郷		
所在地	徳島県吉野川市美郷字毛無93-2		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川など自然豊かな場所に位置し、夏には蛍が飛び交う良い環境に恵まれ、気候に応じて散歩に出かけている。また、季節ごとの行事に参加し、地域の方との交流や友好を深め、地域に溶け込めるよう支援している。ホームでは可能なかぎり自由に、健康で楽しく生活が送れるよう支援し、連携する医療機関と24時間対応可能な連携体制により健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山間部の中腹に位置しており、山や川に囲まれた自然豊かな環境がある。周囲には、同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所があり、体調の急変時には24時間の対応が可能な体制を整備している。職員は、レクリエーションなどのさまざまな活動を行いつつ、利用者の尊厳や権利を尊重し寄りそう介護を実践している。利用者は、明るい雰囲気の中、穏やかな表情で生活をしている。また、近隣のグループホームとの交流も盛んに行っている。管理者や職員との関係は良好で、相互の意見や気づきを共有してサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで一緒に支え合うを理念に管理者職員が共有し1人ひとりに合った役割活動を職員と共にいき実践につなげている。	全職員で、地域密着型サービスの意義と理念について確認しあっており、具体的なケアのあり方について統一化を図るよう努めている。事業所内に法人の理念を掲示しているが、事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	事業所では、法人の理念を掲げたり、地域密着型サービスのあり方について話しあったりして、事業所としての社会的役割の発揮に繋げるよう努めている。今後は、事業所独自の理念を作成するなどして、より具体的な目標を掲げ、さらに質の高いサービスへと繋げられるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、また小学校には毎年運動会や、学習発表会に参加し、交流を深めている。利用者の楽しみの行事となっている。	事業所では、地域の敬老会に参加したり、幼稚園や小学校の運動会に参加したりして交流を図っている。また、同一法人の運営する他サービス事業所と合同で行事を開催している。散歩時に、行事の案内チラシを各家に配付するなどして働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回グループホーム便りを作成し行事報告や暮らしぶり等を載せ理解して頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会義を行い、家族の方に参加していただき意見交換、要望を聞きサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所からの報告を行ったり、出席者と意見交換を行っている。また、管理者は、消防署や老人会等の協力を得て多方面から意見や提案を得ることができるよう働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進委員会義に参加していただき状況やケア、サービスへの取り組みを報告した、グループホーム連絡協議会に定期的に参加し、協力関係を築いている。	3か月に1回、市介護保険課と市内の地域密着型事業所と協働し連絡協議会を開催している。連絡協議会では、研修会の後、相互に悩みの共有や相談を行っている。また、毎月、市担当窓口へ出向いて言葉を交すなどし、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回身体拘束による弊害や悪影響について話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。	月1回、職員は法人の身体拘束委員会に参加し、身体拘束の弊害について理解を深めている。職場内研修で学習したことを日頃のケアに活かし、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてホーム内研修を行い、職員1人ひとりがお互いに気を付け見過ごされることがないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立に向け、職員間で話し合い成年後見人制度については、グループホーム内で研修を行い活用できるよう体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、退去時には十分な説明を行いながら、不安や、疑問の有無を聞き納得がえられるよう、説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族に、なんでも話してもらえ関係築き面会時に意見や、要望を気軽に話せる環境を作り意見、要望があれば、職員間で話し合い運営に反映していけるよう努めている。また意見箱も設置している。	年1回の家族会やカンファレンス、家族の来訪時などに、利用者や家族が意見や要望を表出しやすいよう働きかけている。出された意見は、職員会議で検討し運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、何でも話せる環境作りを行い、意見や、提案があればその都度話し合い、必要に応じて個別に面談を行っている。	代表者や管理者は、朝礼や毎月のカンファレンス、個別面談、日頃の業務等を通じて、職員の意見や要望を引き出すよう努めている。出された意見は、申し送りノートに記入して共有するなどの工夫を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の、勤務状況や、疲労、ストレスの把握に努め、業務マニュアルも職員と話し合い、動きやすいよう変更、ストレス等を、軽減できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人事業所内研修を行い1人ひとりの、力量を把握し、良いところを伸ばせるよう指導し、意欲的に働けるよう、努めている。個人の評価表を作成し向上を把握できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に、参加し研修会や、意見の交換を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員に、なんでも話せる環境作りに努め、会話の中からも、不安や、要望等を、聞き取り、楽しく生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で、要望等を、聞き出し何が不安であるかを、良く聞き安心してサービスが受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族の、希望を良く聞き、本人、家族が納得できるよう、色々なサービスを検討し対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶことも多く、職員と利用者、だけの関係ではなく家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族への報告書を、送付し利用者の様子等報告し職員の思いを伝え、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす知人や、友人が訪ねて来られたり、ホームからも、出かけ、途切れないように支援努めている。	家族の協力を得たうえで、美容院やお墓参り、知人宅への外出を支援している。また、知人や家族の来訪が少ない方には、電話連絡をとるなどして、今まで培ってきた人や場所との関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が苦手な方や、居室で過ごすことが多い方には、声かけし、ホールで話題提供し、利用者同士が関わり支え合えるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った利用者の所へ、面会に行ったり、家族に電話をし、その後の様子を聞き、継続的な付き合いができるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、又会話や、表情から、本人の希望を把握し一人ひとりに合った生活が出来るよう努めている。	日頃から、利用者や家族との関わりを通じて希望や意向の把握に努めている。利用者一人ひとりに応じた言葉づかいなどに留意している。利用者の表情や行動、些細な動作の変化等から真意を推しはかり、本人の立場にたったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族より暮らしぶり等を聞き、また本人との会話の中で今までの、生活状況を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の、心身状態の把握をし、1人ひとりに合った過ごし方が、できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく暮らすために本人や、家族の要望を家族面会時に、話し合ったり、電話をするなどして、介護計画の作成に生かしている。	3か月に1回、介護計画を見直している。月1回、モニタリングを行い、現状に応じた介護計画となるよう留意している。利用者の心身状況の変化に応じて計画を変更するなど、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化については介護記録に記入し、職員間で、話し合い介護計画の、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族より要望等あれば職員間で話し合いその時々に必要な支援が行えるよう、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が、地域の中で、楽しく暮らしていけるよう、地域の行事等に参加し交流を深められるようよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関による往診、受診が受けられるよう支援している。また必要に応じて直接医師から説明を受けている。	協力医療機関のみに限定することなく、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて、受診時の付き添いや情報提供を行い、複数の医療機関と密に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師が定期的に来訪して利用者の不安や身体状況の相談、助言を受けている。体調に変化あるときは看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話す機会をもち事業所内での対応可能な段階で退院できるようにし家族とも情報を交換しながら退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に方針を説明を行いその都度話し合い家族の意向を踏まえ支援できるよう取り組んでいる。	看取りの指針を作成し、契約時に同意を得ている。段階に応じて本人や家族の意向を確認している。医師や関係者間で話しあって対応方針を共有し、本人や家族の意向に添うことができるよう連携を図ってチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で急変時や事故発生時の対応を指導し慌てず対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めている。地域での防災訓練に参加させてもらえるよう話を進めている。	年2回、消防署の協力を得て、法人と協働して避難訓練を実施している。居室の入口には、色分けした花リボンをはるなどの工夫を行って歩行状態を示し、迅速な避難誘導へと繋げている。地域の避難場所を確認したり、近隣住民へ協力を呼びかけたりしているが、相互に協力しあう体制を十分に構築するまでには至っていない。	法人の避難訓練のみにとどまらず、地域で実施している訓練に参加したり、事業所独自の避難訓練に地域住民の参加を得ることができるよう働きかけたりして、より一層、相互に協力しあうことのできる体制の構築に向けて取り組まれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを傷つけないような言葉かけや行動等様々な場面で対応できるよう心掛け実践につなげられるよう努力している。	利用者一人ひとりの性格や習慣、意見を尊重するよう努めている。支援が必要なときも、本人の気持ちに寄りそってプライバシーに配慮したさりげない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決めたことを押し付ける事のないよう複数の選択肢を提案し1人ひとりの利用者が自分で決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が手を出したくなる時もあるが本人のペースや希望に添えるよう時間に余裕を持ってケアするためにその時々で仕事の流れを変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時職員が服を出しておくのではなく本人が着たい服を着られるよう支援しているまたお化粧ボランティアの方に来てもらえるよう話を進めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人ひとりに合わせた食事形態にし食事の準備食器洗いを一緒に行い楽しく食事ができるよう支援している。	同一法人の運営する他サービス事業所の管理栄養士が献立を作っている。事業所で収穫した野菜を食材に活用しており、季節感にも配慮し調理している。利用者と職員は、準備や配膳、後片付けなどをともに楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により調理を行い必要な栄養を十分に取れるようにしている。水分摂取については1日の水分量をチェックし個人記録に記入し十分な水分が取れているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりに合った口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。自分のできる方の見守り、一部介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し1人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い日中失敗の少ない方は布パンツまたは布パンツにパット夜間も個人に合わせて自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄することができるよう支援している。水分摂取や体操を取り入れることで自然排泄を促し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になるとどうなるのかを職員間で話し合い繊維質の多い食材や食事量、水分量をチェックし運動も取り入れながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じてゆったりとくつろいで入浴できるよう支援している。拒否等みられる利用者に対し何回か声かけをタイミングを図り入浴できるよう対応している。希望があれば夜間入浴可能な体制をとっている。	基本的な入浴日や時間帯は週単位で定められているが、本人の希望に応じて入浴することができるようにしている。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を行い、本人が楽しく入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を勧め散歩や役割活動に参加し夜間眠れるよう支援している。夜間眠れない方には話し相手や一緒にお茶を飲み落ち着いて休めるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は1人ひとりの薬の内容を理解し副作用による体調の変化や症状の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが出来る事を大切に役割活動に参加を勧め職員と一緒に楽しみながらできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり買い物の希望があればその時々で対応している。ケアハウスに友人がいる方もおりに行きたいとの希望があれば出かけられるよう支援している。	日頃から、天候の良い日には散歩へ出かけて気分転換を行っている。また、利用者の希望に応じて買い物やドライブ、季節に応じた外出行事を企画している。また、家族の協力を得たうえで、県外の家族に会いに出かけるなど、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを送りつつ、生き生きと暮らすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は預かっておらず立替金にて1人ひとりの希望に合わせて買い物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けたり手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花をいけホールでゆったりと過ごせるようにソファを置きくつろげる空間を作っている。台所では食事の匂いや音がし家庭的な雰囲気になるよう工夫している。	リビングは広く、大きなゆったりとした机を設置している。共用空間の窓からは、畑や風景を見渡すことができる。壁面には季節感のある掲示物を飾っている。利用者と職員は、生活感のある心地よい環境のなかで調理をしながら会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置きゆっくりと過ごせるよう工夫をしている利用者1人ひとりが自分のペースで過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には自分の好きな物思い出が詰まった物置本人が落ち着いて過ごせるよう工夫している。	利用者は、居室に馴染みの家具や仏壇等を持ち込んでいる。事業所では、利用者一人ひとりが居心地良く安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人ひとりに合わせること分からない事を把握し個人に合わせ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで一緒に支え合うを理念に管理者職員が共有し1人ひとりに合った役割活動を職員と共に実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事、また小学校には毎年運動会や、学習発表会に参加し、交流を深めている。利用者の楽しみの行事となっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回グループホーム便りを作成し行事報告や暮らしぶり等を載せ理解して頂ける様努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会義を行い、家族の方に参加していただき意見交換、要望を聞きサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進委員会義に参加していただき状況やケア、サービスへの取り組みを報告した、グループホーム連絡協議会に定期的に参加し、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回身体拘束による弊害や悪影響について話し合い拘束しないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてホーム内研修を行い、職員1人ひとりがお互いに気を付け見過ごされることがないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が1名おられ、実際に関わり事業所内研修でも職員全員で権利擁護に関する制度を学び情報共有するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、退去時には十分な説明を行いながら、不安や、疑問の有無を聞き納得がえられるよう、説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している日頃からご家族様には利用者の状況報告は密にしご意見や要望を伺う様に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、何でも話せる環境作りを行い、意見や、提案があればその都度話し合い、必要に応じて個別に面談を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の、勤務状況や、疲労、ストレスの把握に努め、業務マニュアルも職員と話し合い、動きやすいよう変更、ストレス等を、軽減できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人事業所内研修を行い1人ひとりの、力量を把握し、良いところを伸ばせるよう指導し、意欲的に働けるよう、努めている。個人の評価表を作成し向上を把握できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し交流、意見交換の場となっている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで本人が困っていること、不安なこと求めていること等を本人自身から良く聴く機会を作り受け止める努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様と一緒に見学に来て頂いたり事前に不安や要望を聞きより良いサービスに繋がるように取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向しっかりと把握し安心してサービスを受けることができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち教えあったり励まし合ったりしながら生活を共にし信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに寄り添い家族の意向を聞きながら本人様と良い関係が築けるようにしている又家族にできることは協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人の面会時はゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りも心掛けている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のできること、できないことを把握しその方が力を発揮できるように声かけを行ったり、一緒に行事に参加して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に面会に行ったり、家族にも電話をしてその後の様子を聞き、継続的な付き合いができるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察しその中で思いや希望を把握するように努めている。家族からも聞くようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況を家族から聞いたり日々の暮らしの中で本人からも聴き情報収集に努め一人ひとりの自分らしい生活が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援しているその中で現状の把握に努めるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく暮らすために本人や、家族の要望を家族面会時に、話し合ったり、電話をするなどして、介護計画の作成に生かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に日々の様子や気づきを書きとめ職員間で情報を共有し実践や計画のみなおしに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望に応じ通院や送迎等の必要な支援が行なえるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪や幼稚園、小学校との交流も行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関による往診、受診が受けられるよう支援している。また必要に応じて直接医師から説明を受けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師が定期的に来訪して利用者の不安や身体状況の相談、助言を受けている。体調に変化あるときは看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話す機会をもち事業所内での対応可能な段階で退院できるようにし家族とも情報を交換しながら退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に方針を説明を行いその都度話し合い家族の意向を踏まえ支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で急変時や事故発生時の対応を指導し慌てず対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めている。地域での防災訓練に参加させてもらえるよう話を進めている		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重しさりげない声かけ、言葉かけを心がけている。プライバシーの確保に注意し記録など個人情報の取り扱いの徹底等努めている					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場を提供するよう心がけている					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力頂き季節に合わせた服装ができるように支援したり朝の着替えは本人の意向できめており自己決定しにくい利用者には職員と一緒に考え本人の気持ちにそった支援を心がけている					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたりお誕生会には手作りケーキを提供している。又順備片付けができる方には手伝って頂いたり味見をして頂いている					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により調理を行い必要な栄養を十分に取れるようにしている。水分摂取については1日の水分量をチェックし個人記録に記入し十分な水分が取れているかチェックしている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ声かけ見守り介助を行っている。義歯の定期的な洗浄等配慮している					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。トイレがわかりやすいように標示したり声かけ等を行い失敗の回数を減らすように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には朝牛乳や繊維質の多い食材を提供したり、水分補給の声かけを行ない自然排便ができるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間帯は基本的には安全安楽に入浴して頂く為職員が多い時間帯になっているが利用者お希望やタイミングに合わせてながら入浴できるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や体調に合わせて休息できるように環境整備をしている、夜間寝付けない時には一緒にお茶を飲んだり話をしたり等対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルを作成し薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。又薬の変更や状態の変化がある時は記録し送りで連携を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や出来る事は把握し楽しみ役割を持って生活ができるように場面作りを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせて戸外に出かけられるように支援したり本人の希望を聞き取り外出支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望や能力に合わせてお金を持っていたり外出時には財布を持って出かけ自分で支払いをしていただけるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けたり手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広々していて窓からは川や山の自然の景色が眺められようになっている。温度や湿度にも気をつけるように温度計を見ながら空調を調節している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置き気の合った利用者同士で座れる場所や独りになれるスペースの場を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を使用することでの利点を家族に理解して頂き協力を得てなじみ深い物を家からもって来ていただくようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の了承で表札や造花などを飾りわかりやすしたりトイレの場所を表示したりそれでもわからなくなってしまった利用者には声かけして案内している		